

2000年出土の木簡



(佐賀)

福岡・彼岸田遺跡

建物一棟、土坑二基、埋甕一基、溝九条などで、出土遺物から一四世紀後半から一五世紀にかけて存続したと考えられる。また、近世墓三四基も検出した。

所在地 福岡県筑後市島田字彼岸田
調査期間 二〇〇〇年(平12)一〇月～一〇〇一年一月
発掘機関 福岡県教育委員会

調査担当者 小田和利
遺跡の種類 居館跡

6 遺跡の年代 室町時代・近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

彼岸田遺跡は、筑後川の一支流である花宗川左岸の沖積低地(標高五・四m)に立地する居館遺跡である。筑後市島田地区は、中世

の水田天満宮領水田荘の故地にあたり、花宗川を挟んで対岸の熊野社領広川荘と頻繁に土地相論を繰り返していった。今回調査は、下水終末処理場建設に伴うもので、二〇〇〇年度から発掘調査を実施している。

検出した遺構は、掘立柱

一・四mを測り、建物・土坑を囲繞する区画施設である。さらに一号溝と九号溝の一重の溝で囲まれており、九号溝は北辺長が一二六m以上を測ることから、居館遺構全体としては方二町の規模を有するものと推測される。また、二号溝からは呪符木簡の他に、漆塗り椀・三方・範・臼・下駄・唐鋤・馬鍬・焼けた建築部材などの豊富な木製品が出土している。国産陶磁器(天目茶碗・備前焼大甕)、舶載陶磁器(青磁碗・白磁皿)、石製品(硯・茶臼・砥石・五輪塔)、毛彫り模様のある棒状の銅製品なども出土している。

今回検出した二重の溝(堀)は、居館を防御するための施設で、彼岸田遺跡は水田荘を支配した大鳥居氏が広川荘に対抗するために築造した、前線基地的性格を有する居館遺跡と捉えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「天形星王八王」

・「**天形** (符籙) 天罡 (付籙) 九々八十一

急 (ボローハカーン)

急 (ハカーン)

急 (符)

急 (籙)

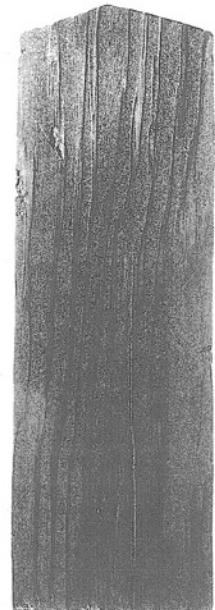
急 (付籙)

急 (如律令)

282×93×5 011

天形星 王八王

天形星
王八王
梵文
九十九
七九八
申
鬼天是
神肩
鬼
尾
如律令



の種子である。三行目一字目は *mam* = マンで文殊菩薩の種子、二字目は *bhum* = ウーンで明王部の種子である。なお梵字については、千手寺の木下密運氏の教示による。

(小田和利)

天形星に対し疫病を抑えることを願つた避邪の呪符と考えられる。頭部先端を山形に削つてある。墨痕は下端部を除きほとんど遺存していないものの、墨書部分が鮮やかに浮き上がり、文字の判読は十分可能である。裏面一行目一字目の梵字は *dhih* = ジクで般若心経または般若菩薩の種子。二字目は *a* = アで文殊菩薩の種子か。二行目の一字目は *bhrum* = ボローンで一字金輪・金輪仏頂などの種子、二字目は *hhum* = ウーンで愛染明王・降三世明王など